

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成28年6月22日(水) 第5限
場 所 6年教室
指導者 福井 幸久

1 単元名 問題を解決するために話し合おう

2 単元目標

- 問題を解決することを目指して話し合うことに意欲的に取り組もうとしている。
……………【関心・意欲・態度】
- 互いの立場や意図をはっきりさせながら、司会の進行に沿って計画的に話し合うことができる。
……………【話す・聞く】

3 指導上の考察

(1) 単元について

5年「意見と理由を聞き取ろう」では、課題に対する複数の人の発言を共通点に着目して整理する活動をおこなってきた。6年「意見と理由とのつながりを聞き取ろう」では、理由を挙げて意見を述べているか考えながら聞く活動をおこなってきた。

本単元では、みんなが納得しながら話し合いを進められるように、議題に対する友達の発言を聞くとき、賛成か反対かを考える前に、発言した意見と理由に筋が通っているかを判断させるようにする。

2学期の「町の未来を考えよう」では、意図を明確に伝えるために資料を活用して伝える活動がある。3学期の「出会いにありがとう」では、小学校生活を振り返り、聞き手を意識して話の構成や話し方を工夫して話したり、聞くときには自分の経験や考えと比べながら聞いたりする活動をおこなう。

(2) 児童について

12人の少人数の学年で、多くの児童は自分の思いを話すことができる。保育園から学級編成がないため、お互いのことをよく知っていて助け合う姿が見られる。しかし、お互いの性格が分かっているため人間関係が固定されてしまっているともいえる。いつもよくしゃべる児童の意見が通りやすかったり、最初に言い出したことがそのまま決定したりすることがある。学活等の話し合う活動のときには、半数の児童は自分の意見を発言でき、半数が聞き役に分かれる。そういった中でも、全ての児童が何かは発言しようとする姿は見られる。

(3) 指導について

第1時では、今までの話し合い活動の様子を振り返らせ、話し合いの役割や進め方を確認させる。また、話し合いたい議題としてどのようなものがあるか考えさせる。

第2時では、教科書の話し合いの例をもとに、話し合いの役割毎に気をつけることを考えさせる。

第3～6時では、自分たちの生活を振り返り、クラスで解決したい問題について話し合う。話し合う前に自分の考えを明確にさせ、全員が発言できるようにする。また、前時の気をつけることを再確認し、話し合いの進め方を意識させる。話し合い活動をする場合、全員の発言の時間を確保することが難しいので、話し合いグループ(8人)、見守り隊グループ(4人)に分け話し合いを進めさせる。話し合い後、見守り隊グループが感想・助言を出し、次に話し合うときに気をつけることをノートに書かせる。

話し合う議題としては、学校行事やクラスの課題等一人一人が考えをもつことができるものとしていく。議題は、児童から出てきたもので進める。話し合う議題として出てきたものは「6年生が図書室を利用する回数が減った」「雨の日、教室・廊下で暴れている」「6年生の外遊びが少なくなった」「忘れ物が多い」「校庭にゴミが多い」が出てきた。その場で考えて発言すると時間がかかってしまうので、児童一人ひとりに前もって議題に対する原因とそのわけ・解決する方法を書かせておく事で進行をスムーズさせる。

第7時では、単元を振り返り、互いの立場や意図を明確にて、話し合うことができたか考えさせる。

自分の言いたいことを思いついたままではしているだけでは、聞き手には伝わりにくい。聞き手を意識した話し方をする事で、開いての考えや意図を理解できることから、自ら考えて高め合うことができると考える。そのためには、伝え方を指導していくことが必要となる。そこで、発表するときは、最初に結論を伝え、その後に理由を伝えるようにさせる。また、聞き手も複数の話し手から聞くことになるので、

メモをとることもさせる。メモをとるときには、文章として記録するのではなく、自分であとで見て分かる程度に必要な単語や記号を書いていくようにさせる。

児童にとって学習活動の流れが分かっていると、時間を意識して学習に取り組むことができることから、めあてを確認させるときに、本時の大まかな流れを提示する。授業のおわりには、本時の活動を振り返るとともに次時の活動の目標を立てる時間をとり次時とのつながりを持たせる。

また、学力向上および家庭学習の習慣化をはかるために、家庭学習の計画を学校で書き、家庭学習後にも振り返りを書かせている。また、振り返りを家で見てもらい一言書いてもらっている。保護者が家庭学習の様子を知ることで子どもの様子や学校側が考えている指導の仕方を理解してもらうことができる。そのことで、保護者と一緒になって同じ向き(ベクトル)で児童に関わっていくことができる。家庭事情により、印だけであったり、印すらなかったりする児童もみられるが、少しずつではあるが自主勉強をする習慣が定着しつつある児童もみられるようになった。

4 指導計画(全7時間)

- ・ 学習の見通しを立てる.....1時間
- ・ 話し合うために留意すべき点を理解する.....1時間
- ・ 自分たちの生活を振り返り、クラスで解決したい問題について話し合う...4時間(本時4/4)
- ・ 単元の学習を振り返る.....1時間

5 本時の指導

(1)本時の目標

- ・ 自分の考えを伝えようとしている。
- ・ 話し合いの進め方に沿って進行し、互いの立場や意図を明確にして関係づけながら話し合うことができる。

(2)準備物

指導者…話し合いの進め方カード、見守り隊グループの観察の視点カード

(3)本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価
1 本時のめあてを確認する。	・ノートにめあてを書かせる。	
クラスの問題を解決するために話し合おう。友達の話し合いを観察しよう。④		
2 話し合うときに気をつけること・観察の観点を確認する。	・第2時で確認したものを見させて、進め方を確認させる。	
3 自分の役割を確認し、話し合う。	・司会者・記録者・見守り隊の担当を確認させる。 ・司会者は、時間を考えて進められるようにタイマーをもたせる。 ・発言するときは、結論を先に言い、後で原因・理由を言わせる。 ・メモは自分が見て分かる程度の簡潔なものとなっているか確認し助言する。 ・見守り隊グループのメモには、話し合いに適したこと・話し合いからそれたことを区別して書かせる。	
4 話し合い活動を振り返る。 見守り隊グループから感想・助言を聞き、自分の話し合い方を振り返る。	・見守り隊グループのメモを発表させる。 ・見守り隊グループの感想・助言をメモをとらせる。 ・全員の発言が終わるまで、振り返りを書かせない。 ・次時の話し合いで気をつけることを考えさせる。	
6 本時の活動を振り返る。		評価 ・自分の考えを理由をつけて話している。 ・手順や観点に沿って話し合っている。 (発表・学習プリント)